

第49回

松江城天守幻視考

F課長様

昨日のお問い合わせの件、所見に併せ、「明治初年」とされてきた写真4枚をお送りします（写真A、B、C、D）。

写真Bには二之丸の堀が残っています。写真Cは『新修島根県史』、島田成矩先生の報告（『島根県文化財調査報告10』）によれば「明治5年」とされるもの（根拠は分かりません）。写真Dは写真左にある二之丸御殿の一部が解体されつつあるので、天守を残して他の建物は取り壊されたとされる明治8年の状況を写したものでないかと推測できます。

写真A、B、C、Dに写る天守を比較すると、望遠で不鮮明ではありますが、B、C、Dの天守に目立った傷みや建物のゆがみはありません。明治27年に松江城は修理（明治の大修理）されますが、明治25年8月頃に発生した暴風で天守が傷んだことが新聞記事になっています。

写真Aがいつ撮影されたかは明らかではなく、最初にこの写真を紹介したと思われる昭和30年(1955)の『重要文化財松江城天守修理工事報告書』では、「明治初年」あるいは「明治8年」と説明されています。このことから、「明治初年」、「明治8年」というイメージが今日まで伝えられたのではないのでしょうか。

実際のところはもう少し検討が必要で、私見の段階ですが、写真B、C、Dの明治8年以前の天守にそれほど目立った傷みが認められないこと、天守に大きな傷みがあれば新聞記事になることなどを考えれば、写真Aは、明治8年頃のものではなく、明治27年の大修理の契機となった傷みを撮影したものではないかと考えられます。

平成27年(2015)5月27日

史料編纂室 稲田信

1. ことの始まり

今年の5月下旬に松江市役所秘書広報課F課長から問い合わせがあった。「明治初年」あるいは「明治8年」の写真として紹介される荒廃した松江城天守の古写真(写真A)についてである。F課長の上司がその写真について明治8年(1875)のものだと会合などで紹介しているが、それで正しいのだろうか、というものだった。この問い合わせをきっかけに、改めて史料編纂室保管の明治初期とされる松江城古写真を並べてみた(写真AからD:文末に掲載)。その時点で判明した事項の取り急ぎ返信メールが上記である。

2. 残された松江城天守古写真

この結論に至るいきさつをその後確認した事項を交えて少し詳しく述べてみよう。

『島根懸史』九「藩政時代下明治維新时期」によれば、「明治八年五月広島鎮台は工兵大尉斎藤直演を派出し千鳥城の諸建造物並に三ノ丸殿を入札払とし之を取去らしめんとす、入札払の実行に当り櫓の如きも四円又は五円にて落札しぎぎたる天守閣も僅に百八十円にて石橋の某に落札せり、此事伝聞せる旧藩士等は感嘆惜く能はず元出雲郡の豪農勝

部本右衛門藩士高城権八等と相議り落札高の金を納めて天守閣破壊は辛ふじて免れたるも其他の建造物は日ならずして解き払はれ荒涼たる廢墟を現出せり」(下線筆者)と記されており、この記述が正しいければ、天守以外の建物が写る写真B、C、Dは明治8年(1875)5月以前に撮影されたものとなる。

まず、同じようなアングルで撮影されたB、C、D3枚の古写真を比較した。

写真Bは、三之丸正面の番所横(南側)道路辺りから写されたものであろう。天守をはじめ本丸の武具櫓、多門、高石垣上の二之丸には御書院、南櫓、御広間、中櫓、半壊した状態の瓦塀覆が見え、三之丸には表御門(長屋門)、多門(長屋)、表御門へ通じる土橋、手前には柵、右端には番所が見える。二之丸の石垣上の瓦塀覆が残っているので、瓦塀覆が取り払われた写真C、Dより古い年代のものである。

写真Cは、写真Bとほぼ同一場所の三之丸正面の番所横(南側)道路辺りから撮影されたもので、天守をはじめ本丸の武具櫓、多門、高石垣上の二之丸には御書院、南櫓、御広間、中櫓が見え、三之丸には表御門(長屋門)、多門(長屋)、表御門へ通じる土橋、手前には柵、右端には番所が見える。二之丸石垣上の瓦塀覆が取り払われているので、写真Bより年代の新しいものである。

写真Dは三之丸前番所の北側で表御門へ通じる土橋西端辺りから写されたものと考えられ、天守をはじめ、本丸の武具櫓、多門、高石垣上の二之丸には御書院、南櫓、中櫓、御広間の屋根、三之丸には表御門(長屋門)北の多門(長屋)、土橋の一部、土橋西端付近の柵が写る(番所の北側から撮影しており、写真B、Cに写る番所は見られない)。二之丸石垣上の瓦塀覆は写真C同様、全て取り払われているので、写真Bより年代の新しいものである。さらに、建物が解体されつつあることが確認できる。例えば、B、Cに写る御広間玄関が無くなり(武具櫓手前)、写真御書院の屋根の大半が取り払われ屋根にうっすらと作業中と思われる人物複数が写り、南櫓の二階窓格子の取り外し途中の様子が写り、表

御門北の多門も解体されつつあること(写真左端)が写る。よって、写真Cよりも新しいものである。撮影時期は、天守を残して「他の建造物は日ならずして解き払われ荒涼たる廢墟を現出せり」となる直前、すなわち明治8年5月頃の入札直後のものではないかと想定できる。

撮影順序は明らかにB→C→Dである。

なお、明治3年(1870)3月には御作事所(御破損方)の御大工等によって天守四重屋根の修理(墨書の記載内容からかなりしっかりした屋根の修復である)が行われているので、写真B、C、Dは、明治3年から同8年までの短い間に写された写真と見なしてよいだろう。

3. 荒廃した松江城天守古写真が伝えるもの

さて、写真Aである。「明治初年松江城天守」、「廢藩置県後の松江城天守閣(明治初年)」、或いは「明治8年」と紹介されてきた。一方、天守とその他の城郭建物が写り、明らかに明治8年以前と特定できる写真は、これまで確認できた中では、写真B、C、Dのわずか3枚のみである。この3枚の天守古写真を年代順に拡大し、天守を写真Aとともに並べてみた(「天守の比較写真」参照)。写真B、C、Dの中で最も新しく、明治8年5月頃の入札直後のものと想定する写真Dはかなり高精細な写真が伝わっているが、天守は写真Aのように崩れておらず、外見上それほど目立った傷みも認められない。このことから、写真Aの撮影時期を「明治初年」、「明治8年」のものとするのは難しいように思われる。また、明治6年には松江の豪商たちによって松江城の天守や本丸、二之丸を会場とした博覧会が企画され、開催されたことが史料で確認できる。明治6年(1873)に本丸、天守にも大勢の人々が訪れる博覧会が計画され開催されたことは、やはり写真Aの撮影時期を「明治初年」、「明治8年」のものに見做すことは難しいように思われる。

では、写真Aはいつ撮影されたものであろうか。考えつくのは、明治27(1894)年に大修理が行われたことである。写真Aは、何らかの修理を要する状況、可能性として明治27年の大修理の契機となった傷みを撮影したものではないかと推定したのである。

そこで、松江城天守に関する新聞切り抜きと照合したところ、明治25年(1892)8月6日の『山陰新聞』に、「天守閣崩落事少しく遅聞に属すれとも暴風雨の為城山天守閣下層東南隅の屋根五六間許り崩落せしを発見せり」とあり、明治27年の大修理の機運は、明治25年8月6日以前に松江城を襲った暴風雨による甚大な被害が要因となり、急速に高まったように読み取れる。

他にも、明治3年(1870)3月の天守四重屋根の修理の記録(天守内の墨書)、明治21年(1888)の修理の記事が確認できる。明治3年の修理については御大工頭らの名前が記録されており、写真B、C、D写真を見ても分かるように、少なくとも廃藩置県前の明治3年3月までは天守が松江藩によって適切に管理されていたと考えられる。また、明治21年の修理は詳細不明ながら、『山陰新聞』記事によれば、明治21年「3月27日から天守閣修理」「4月13日、客月24日以来天守閣の縦覧は1600名余、寄附金20円と若干の寄附金」「4月15日、旧暦の弥生の節句で天守閣に登る人が多かった」「5月、西南戦争記念碑の式典、天守も会場」「5月27日、平均70人から80人の天守閣縦覧」「9月8日、天守閣縦覧人、5日200余名、6日350名ばか」などが確認でき、多くの人々が天守に登る明治21年の状況は写真Aのような荒廃した天守とは結びつかない。

それに対して、明治大修理の竣工式の様子を伝える明治27年12月17日付『山陰新聞』によれば、「工事委員三島佐次右衛門氏は報告すらく抑も本工事は、明治二十七年六月十日を以て起工せしも、累年雨露の浸蝕に任せし為破損実に甚だしく、其の一二を挙げれば四方破風屋根地取替百十坪、土居二百二十坪、座板長替百三十六坪、柱建替二十一本、土壁塗替三百二十坪、瓦の補填一万三千五百枚、漆喰百三十石、此他桁梁垂木鉄具等の取替枚挙に暇あらず而して同年十一月十八日完く竣工す」とあり、「四方破風屋根地取換」「柱建替二十一本」「瓦の補填一万三千五百枚」などを要する傷み具合のために、この大修理がおこなわれたことが分かる。修理の詳細は今後の課題ではあるが、写真Aのような荒廃した天守を修理するために、「四方破風屋根地取換・・・」の記事は矛盾しない。

とすれば、やはり写真Aは明治27年の大修理の契機となった傷みを撮影したという可能性が高く、想定できる撮影時期は、「天守閣崩落」の暴風雨に襲われた明治25年8月頃から明治の大修理が始まる明治27年6月10日までということになる。

松江城古写真の年代整理により改めて見えてきたことは、むしろ、この崩壊しそうな天守を目の当たりにした市民有志により大修理が発起され(注)、市民の募金などによって松江城天守は明治27年に修復・保存され今日に至るといふ、その記念碑的写真として写真Aは捉え直すべきだということである。松江城を大切に思う市民の心意気には歴史がある。

それにしてもなぜ、写真Aを「明治初年」「明治8年」の天守の状況として理解し続けてしまったのだろうか。想像するに、例えば『島根縣史』に記された「豪農勝部本右衛門藩士高城権八等と相議り落札高の金を納めて天守閣破壊は辛ふじて免れたるも其他の建造物は日ならずして解き払はれ荒涼たる廢墟を現出せり」という記録や記憶が、残された衰れた天守として識者の脳裏にイメージされ、そこに『重要文化財松江城天守修理工事報告書(昭和30年刊行)』が写真Aを「昭和初年」「明治8年」と誤って紹介したことで、多くの人々が「明治初年、明治8年の天守はこの写真のように衰れたもの」という「幻想」を持ち続けてしまったのではと思う。史料の解釈、とりわけ写真資料の解釈は人々のイメージに直結する。

気づいてみれば、松江城がたどった過酷なひと時の写真に、「荒廃した天守を目の当たりにした市民有志により大修理が発起され、市民の募金などによって松江城天守は明治27年に修復・保存され今日に至るといふ、その記念碑的写真」という理解がなされず、60年近くも「明治初年」「明治8年」の衰れた天守という「幻想」を見続けていたことは驚きである。

【附記】

平成27年(2015)8月25日、上東川津町の山口信夫さんから山陰中央新報こだま欄へ、「松江城写真撮影時期に疑問」とする投書があり、「今にも倒壊しそうな松江城天守」の撮影時期に疑問が投げかけられた。明治21年5月、西南戦争記念碑の建碑式に併せて天守で400人余りの宴会と4日間で1万4400人の登閣を伝える新聞記事を検索され、疑問が膨らんだというのである。真相解明のために、松江市史料編纂室の見解を求められた。

松江城天守古写真については、『松江市史』「松江城」の執筆に関することから上記のような内容をまとめていたが、これまで昭和30年(1955)以来、60年間も「明治初年」、「明治8年」と語り続けられ、市民の皆さんにもよく知られた写真の撮影年の変更である。当然ながら市民の関心も高い。

職場の上司に新聞の投書内容と古写真への見解を報告すると、「なんで分かった時点で早く公表しなかったか」とご指導を受け、急きょ市役所上層部、関係者への説明に廻ることとなった。新聞記者からの取材を連日受け、こだま欄への回答を用意し、あわただしい1週間となった。

実は、こだま欄は400文字の制限があり、とても詳しい論証は書けず、撮影年代比定の結論のみとなった。詳しい論拠の説明は今年度未刊行の『松江市歴史叢書(松江市史研究)』に掲載する予定だが、貴重な一石を新聞に寄せられた山口さんや市民皆さんの疑問に対し、新聞では書ききれなかったことを紹介する。

松江市史料編纂室では、130名余りの執筆陣の献身的なご努力をいただき、『松江市史』の刊行と、基本調査、付帯出版物の刊行を行ってきた。ここから導かれる松江地域の最大の特徴は、古代から現代にいたるまで、出雲地域、島根県の政治権力の中枢が置かれた場所であり、結果的に山陰の政治・経済・文化の中核地であったということである。そのため、松江地域には驚くほどの貴重な歴史史料が残されているが、それらの多くが手つかずの状態にあるように思われる。一方で、十分な調査と研究がなされないまま、「物語」のような話として松江の歴史を説明する場面も見受けられる。松江城の調査研究で故西和夫先生が、「正確に理解し、正当に評価することが大切」と諭してくださった

ように、松江市が今後とも歴史を活かしたまちづくりを進めていくためにも、松江市には市民の皆さんとともに、継続的に調査・研究を進めていける体制が必要だと痛感する所以である。

[今回、写真Aの撮影時期を明治25年8月頃から明治27年6月10日までと想定し提起しましたが、残念ながら一次的な資料により撮影年月日が明らかになったわけではありません。明治中期になると明治初期に比べ残された史料も多くなることから、識者の皆様の御教示を仰ぎたいと思います。]

(注)

明治27年5月22日から24日の山陰新聞に天守閣修繕事務所より天守修繕の入札広告が出され、発起人として岡崎運兵衛、佐藤喜八郎、森脇甚右衛門、大島新四郎、三島佐次右衛門、桑原羊次郎、松本歓次郎、織原万次郎、清原宗太郎、金沢伝十郎、山内佐助、福村弥一郎、古津元市、原源蔵、若槻敬、勝田千之助、早田豊一郎、泉友助、園山伊助、森脇新兵衛、高見兵助、尾原佐七、森脇儀兵衛、田中助次郎、持田熊次郎、河内忠助、参成三郎兵衛、浅島大造、山本権七、西代喜太郎、山口卯兵衛、中島伊八、梅木小太郎、福岡世徳、高橋義比の35名が名を連ねる。修繕事務所は松江市天神町の松江銀行内に置かれた。

また、史料編纂室の市内古文書史料調査でも、天守閣修繕事務所事務所から発行した義捐金の領収書(例えば大野村某氏宛、明治26年8月4日付)が確認されており、天守修理のための義捐金(募金)が市民に広く呼びかけられたことがうかがえる。

平成27年9月8日／史料編纂室長：稲田信

↓【写真A】松江城古写真（推定：明治25年8月頃から明治27年6月10日の撮影）



↓【写真B】松江城古写真(明治8年以前：現存する最も古い松江城天守の写真)



↓【写真C】松江城古写真(明治8年以前：現存する二番目に古い松江城天守の写真)



↓【写真D】松江城古写真(明治8年：現存する三番目に古い松江城天守の写真)



↓【写真Dの部分拡大】二之丸内の御書院、南櫓：御書院屋根の解体作業、南櫓二階窓格子の取り外し途中の様子が確認出来る。

御書院屋根には作業中であろう人物が複数写る。



<天守の比較写真> (左) 【写真A】(推定:明治25年8月頃から明治27年6月10日) / (右) 【写真D】の天守(明治8年:三番目に古い天守)

